



まちづくり計画課都市景観係・TEL内線3215

昔から、まちにはさまざまな暮らし方のルールがありました。

蔵造りの町並みに位置する一番街商店街は、建物の高さや位置などを周囲の町並みを見て決めるなど、古くからある町家の暮らし方のルールを項目ごとに具体化することで、独自の町並み基準である「町づくり規範」を作成しました。この基準に合わせ、「町並み委員会」という自主的な審査機関で、毎月、同商店街内における建物の建て方やデザインを審査し、景観形成を行ってきました。



都市景観形成地域の、時の鐘周辺

同商店街周辺は、平成十一年から伝統的建造物群保存地区として、許可制度を活用した景観保存整備を行っています。そのほか、城下町の様子を色濃く残す市役所本庁舎周辺の川越十カ町地区や、川越駅に隣接するクレアモール・八幡通り周辺地区についても、都市景観条例に基づき都市景観形成地域として指定し、届け出による緩やかな景観誘導を行っています。

行政からの一方的な規制ではなく、地域の皆さんが必要としているルールを制度化することにより、円滑なまちづくりを行います。

人権教育シリーズ

子どもの虐待を理解するために⑧

人権推進課人権推進担当・TEL内線2282

このシリーズは、平成十七年二月に小児科医・坂井聖二さんを招いて行った、人権問題講演会の要旨をまとめたものです。

虐待を受ける子どもは、幼い子どもが多いです。でも大事なことは小学生もけっこう多く、中学生や高校生もいるということです。そんなにひどい親ならさつきと逃げればいいじゃないかとよく言

いますが、子どもにとって親は、どんなに自分をいじめて、無視しても、かけがえない存在なんです。子どもから親を捨てることは

できないんです。家出ができるのは思春期の年齢に達してからです。知らない人に殴られたら子どもはその場所に二度と行かないでしょうが、親から虐待を受けた子どもは逃げ場がないんですね。どうするかというと、自分がいい子

になつたら愛してくれるはずだというふうな位置付けるわけです。子どもにとつて、けがをさせられ

たり、ごはんを抜かされたりするよりも、いちばん怖いことは親を失うことなんです。だから虐待が長引くんです。ひどい仕打ちを受けるからといって、家に帰

りたくないと言っているのは珍しいことです。子どもは自分の親が非難されることを嫌いますから、SOSを出しながら、でも家に帰りたくか、実はうそだったとか、前言を翻す子もいるくらいです。

小中学生の被害児は、乳幼児期を生き延びたんです。でも自分を愛して守ってくれる親から虐待を受けた子どもは、思春期に達するまでの間に大きなゆがみが生じますよね。自分は愛されるにふさわしくない存在だと思いついて、多くの子どもは、多動で、乱暴で、言うことを聞かない子どもになります。そして教師からもたたかれることで、やっぱり自分は大人から嫌われるんだというアイデンティティを獲得して思春期に達します。

虐待の問題は、外傷の大きさの問題にとらわれがちですが、そういう虐待環境に子どもが生きていたということがとても大きいことです。(つづく)

投票率向上のために

選挙管理委員会事務局・TEL内線3712

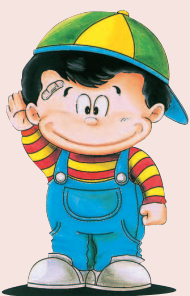
●20歳になったら投票に行こう

20歳になった皆さん、成人おめでとうございます。

いよいよ、大人(有権者)としてのスタートです。20歳になった皆さんには、選挙権があります。政治に参加する権利を得て、名実ともに大人の仲間入りをしたこととなります。

ただし、選挙権があっても、市の選挙人名簿に登録(年4回および選挙時)されていないと投票することはできません。登録は住民基本台帳に基づいて行いますので、引っ越しをした際には住所変更の手続きをしてください。

大切な権利である選挙権を行使するため、自分の意思で、必ず投票に行きましょう。



埼玉県の選挙統一キャラクター「選挙くん」

みんなの作文

音楽会のはずむ歌

南古谷小学校三年

喜田百合子

私は音楽会の時、きんちょうしませんでした。きんちょうの顔を見せませんでした。ずっとわらって心がはずんでいました。五年生が終わってむねがどきどきしたけど、体育館に入る時、にっこりわらっていました。

ママを見つけることができなくて、ひなのちゃんに教えてもらいました。ママが手をふっていました。ママを見ると、なんだか、わらってしまいました。ママもわらっていました。

ふえの時くしゃみをしそうになりましたが、がまんしました。本番の時、しつぱい



たくなかったからです。ふえは、「川はよんでいる」です。武田先生のしきに合わせられました。曲のはやさが下がったり上がったりしました。でもついでいけました。しきは、大切なんだなと思いました。

先生は、みんなの曲の流れをそろえなおしました。また、スムーズに曲の流れがそろいます。しきは、みんなの曲をそろえなおす役目をしているんだなと思いました。曲のスタートは少しばらつきました。でも、先生はほめてくれました。のぼす音ものぼさない音もそろいました。

次に、「おかしなすぎなまほう使い」です。楽しい曲でずっとわらいながら歌い、はずんでいました。宮根先生のしきに合わせ、そろって歌えました。

体育館を出たとき、あせだくでした。

*ふりがなは広聴広報課で付けました。

ポシャベリ倶楽部 213 植物あらかると

カブ

セリ・ナズナ・ゴギョウ・ハコベラ・ホトケノザ・スズナ・スズシロ



は、春の七草です。その中に出てくるスズナは、カブのこと。

カブは、アブラナ科の越年草で、原産地はヨーロッパ東部。冷涼な気候を好みます。栽培起源は古く、紀元前には栽培されていたようです。

生産農家の方から伺ったのですが、カブは形が丸く整った物おいしいそうです。

1月7日の朝に、七草がゆを食べた方も多いのでは？ 新年に味の濃い料理を食べたあとの七草がゆは、さっぱりとしていて、とてもおいしく感じられますね。

短歌

(市民文化祭入選作品より)

秋海棠は落し涙と言う人あり咲く一群の薄き紅
春どりのキャベツ植ゑるわが廻り雨降ることくに紅葉散りくる

「この子をもう育てていけませんので」という声聞こゆままと遊び
ヒメシヤクナゲの名に憑かれきて湿原に膝折りてみる豆ほどの花
三輪車のベルならしつつか来し幼肩そびやかし我が前に止まる

俳句

(市民文化祭入選作品より)

とんと踏むシテの足音秋澄めり
乱菊や時に埋もるる軍馬の碑
かくれんぼ鬼の泣き出す秋の暮
秋の灯の民話のごとく点りけり
子の拾ふ椎の実母の掌に余る

川柳

(市民文化祭入選作品より)

演じてるうちに姑好きになり
晴れ女傘の予報をくつがえす
年金の暮しになつて籠を締め
北斎に魅せられて着る江戸小紋
忘れ傘終着駅へひとり旅

応募方法 (3月掲載分は1月31日(水)必着)

- 短歌部門＝当季雑詠3首まで、俳句部門＝当季雑詠2句まで、川柳部門＝雑詠3句まで
- 市内在住・未発表・創作のもの・かい書で明記・すべての漢字にふりがなを付ける・作品の返却なし・掲載時に選者が手を加える場合あり
- ハガキに部門・作品・住所・氏名(ふりがな)・年齢・電話番号を明記し、〒350-8601川越市役所広聴広報課

進藤百枝(神明町)
富田国子(的場)
荒木秀子(かすみ野一丁目)
下口たみ(的場)
渡辺三枝(的場)